

# 知事記者会見の概要

日 時：令和3年7月21日(水) 10:00～10:33

場 所：502会議室

出席者：知事、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 山形県が行う大規模接種について
- (2) 「山形米(マイ)ハート(My Heart♡) 贈ろうキャンペーン」の実施について

### 代表質問

- (1) 県の裁量で市町村に配分できる新型コロナワクチンの調整枠について

### フリー質問

- (1) オリンピックにおける観客の取扱いについて
- (2) 山形県内における新型コロナワクチン接種状況について
- (3) 副知事の不在について
- (4) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (5) 衆議院議員選挙への対応について
- (6) 発表事項1に関連して

<幹事社：毎日・産経・YBC>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。大変、暑い日が続いております。梅雨が明けたと思ったら、もう一気に夏の暑さとなりまして、ここ数日本当に猛烈な暑さ、猛暑となっております。本県では、ここ数日で3名の方が熱中症の疑いでお亡くなりになりました。心からお悔やみを申し上げます。明日以降もこの高温が続くと思われまますので、県民の皆様、特に高齢者の方々には、熱中症にならないよう、くれぐれもご注意をいただきたいと思っております。

新型コロナ感染予防のため、県民の皆様には、マスクの着用をお願いしておりますけれども、熱中症を防ぐためには、水分補給、そして暑さを避けるということが大切であります。特に農作業など屋外の作業で、人と十分な距離、2メートル以上の距離を確保できる場合にはマスクを外しましょう。なお、現場の状況でマスクを着けて屋外で作業をする場合もあるかと思っておりますけれども、そういったときは無理のない作業計画、そして定期的な水分補給、涼しい場所での休憩などを心掛けてくださいますようお願いいたします。

それから、新型コロナについて申し上げます。昨日、県内で初めて L452R 変異株が1件確認されました。デルタ株かどうかにつきましては、現在、衛生研究所で全ゲノム解析を行っておりますので、結果が判明次第お知らせいたします。今日明日に判明すると聞いております。全国的にも感染が広がっているデルタ型につきましては、アルファ型よりも感染力や重症化リスクが高いと言われております。ワクチンによる予防が効きにくいということも指摘されております。感染拡大を招くことがないように、今後とも危機感を持って対応していく必要があると考えております。県民の皆様には改めて感染のリスクが身の回りに常にあるという意識を強く持っていただいて、正しいマスクの着用、そしてこまめな手洗い、消毒、三密回避、換気の励行など、基本的な感染防止対策を徹底してくださるようお願いいたします。また、移動に伴う感染拡大、これも本当に、本県の場合、多いと思っておりますので緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象地域との不要不急の往来は控えていただきますようお願いいたします。

そして、いよいよ今日から東京2020オリンピックが始まりました。本日から一部競技がスタートしております。明後日の23日の開会式から、競技が本格化いたします。本県からは、ボクシングの岡澤セオン選手、アーチェリーの中村美樹選手、水球の三浦里佳子選手、鈴木透生選手、そしてバレーボールの高梨健太選手、この5名が出場されます。オリンピックという檜舞台で、本県出身選手が大活躍することを県民の皆様とともに心から期待しております。選手たちの活躍する姿を通して、県民の皆様にも夢や感動を与えてくださることも心から期待しております。なお、本県選手については、23日に競技が行われるアーチェリーの中村選手を皮切りに、24日にはボクシング、水球、バレーボールと熱戦が繰り広げられます。県民の皆さん、一丸となって応援してまいりましょう。

私から 2 点発表がございます。まず 1 点目ですけれども、山形県が行う大規模接種についてであります。県が主体となって、県庁で行うワクチン接種事業について、予約方法などの内容がまとまりましたのでお知らせをいたします。なお、詳細については後程、担当部局から説明がございます。

まず、使用するワクチンですけれども、ファイザー社製であります。12 歳から 64 歳までの県内すべての市町村にお住まいの方が対象となります。そして、15 歳以下のお子さんについては、保護者の方が同伴されますようお願いいたします。8 月 7 日から実施し、それぞれ 3 週間後に 2 回目の接種を行います。最終日の 9 月 26 日まで、計 12 日間、1 日当たり最大で 1,000 人に接種を行います。

予約方法でありますけれども、専用のホームページを設けます。7 月 29 日午前 9 時から予約をお受けしますが、ページにはすでにアクセス可能であります。LINE や QR コード等を活用いただき、事前にアドレス登録などをしていただくと便利であります。予約にあたりましては、市町村が発行する 10 桁の接種券番号の入力が必要となります。接種券がお手元に届いていない方は、市町村にお問い合わせいただきますと番号を教えてくださいることができます。なお、ネット環境、パソコンやスマホなどをお持ちでないなど、予約操作に不安がある方につきましては、ご本人が県庁においていただきますと、県の職員が予約操作をお手伝いいたします。また、ご不明な点につきましては 29 日から、専用のコールセンターを開設しますので、お問い合わせいただければと思います。

次に来場者支援であります。障がいのある方や、幼児をお連れの方向けにタクシー利用料金の助成を行います。接種日当日、障がい者手帳や往路のタクシー料金の領収書をご提示いただければ、復路のタクシー料金に相当する金額のタクシー利用券を 500 円単位で上限 3,000 円まで配布いたしますのでご活用ください。また、幼児をお連れの方に安心して接種に臨んでいただけるよう、県庁舎内に臨時託児室を開設いたします。メールなどでの事前予約が必要とはなりませんけれども、ぜひご活用ください。なお、接種会場内にはベビーベッドも備え付ける予定でございます。

この接種事業は、県立病院はもとより、山大医学部や県立保健医療大学、県医師会、県看護協会、そして県薬剤師協会といった医療関係団体のご協力のもと、オール山形体制で実施をいたします。円滑な実施体制の構築に万全を期してまいりますので、多くの県民の皆様のご利用をいただきたいと思います。

もう 1 点ありまして、「山形米ハート贈ろうキャンペーン」。山形のお米を贈ろうキャンペーンの実施について申し上げます。新型コロナの影響が長期化して、外食チェーンなどが不振なため、業務用米を中心に米の消費が落ち込んでおります。業務用の比率が高い本県の主力品種「はえぬき」が大変苦戦しておりますので、はえぬきの販売促進と消費拡大を図るため、JA グループ、米販売店等と連携して明日、7 月 22 日から 9 月 15 日までの期間、県産米の県外への贈答を呼びかける全県運動「山形米ハート贈ろうキャンペーン」を

実施いたします。期間中、こちらののぼりがあるキャンペーン参加店舗で県産はえぬきを購入して、県外に送る場合、配送1件当たりの送料について500円をキャンペーン事務局が負担いたします。この取組みを基本に、例えば送料無料にするなど、独自の取組みを行っていただく店舗もございます。いつもどおりに会えない、県外に住むご家族や、ご親戚、ご友人など大切な方々に本キャンペーンを活用して、おいしい山形県産米を贈り、消費拡大にご協力いただきますと生産者の応援にもつながりますので、県民の皆様、どうぞよろしく願いいたします。私からは以上です。

#### ☆代表質問

##### 記者

山形放送の渡部です。新型コロナワクチンの供給についてお伺いします。国は来月の供給分から県の裁量で市町村に配分できる調整枠を設けておりますけれども、本県においては、市町村への配分をどのような基準で行うのか、その方針をお伺いできればと思います。

##### 知事

はい、わかりました。政府から示された8月分のワクチンの配分計画によりますと、8月前半の週に配送の第11クールと、後半の週に配送の第12クールについて、人口比に基づき配分される「基本計画枠」というのがございますが、それとは別に、県の裁量で市町村に配分する「調整枠」が設けられたところです。

先般、配分数が決定した第11クールで申し上げますと、人口比で配分される「基本計画枠」は、県内合計で69箱、約8万回分となりました。「調整枠」につきましては、県内合計で9箱、約1万回分が政府から示されましたので、これを、鶴岡市に3箱、酒田市に1箱、天童市に2箱、東根市に3箱配分することとしたところでございます。

県の配分の考え方でございますが、第10クールまでの政府による配分量を市町村ごとに見ますと、ワクチンの接種対象年齢である12歳以上の人口に占める、ワクチン配分量の割合には、相当なばらつきが見られるところがあります。それでワクチン配分の公平性の観点から、この割合が低い市町村に重点的に配分することとしたところでございます。

県内市町村では、政府の方針に従い、接種のスピードアップに精力的に取り組んでいただいております。本県の接種率は全国トップクラスで推移をしておりますが、市町村が希望するワクチン量と政府の配分量とは、7月以降、本当に大きな開きが見受けられます。今回、県による「調整枠」は設けられましたけれども、市町村の希望量に届くものとはなっていないのが実態でございます。政府には、希望する県民が少しでも早くワクチン接種を終えられるよう、市町村が希望するワクチン量の十分な供給に向けて、安定的な確保と自治体への速やかな情報提供を強く求めてまいりたいと考えております。以上です。

☆フリー質問

記者

河北新報の奥瀬です。お願いします。先週の知事会見でも触れましたが、今日から東京五輪のサッカーの試合が宮城で始まります。従来どおり観客を入れての実施となる見込みですが、東京で感染が再拡大する中で有観客とすることへの受け止めと、あらためて実際に観戦に行かれる方への呼びかけを一言お願いします。

知事

はい。本当に待ちに待った、日本国民そして全世界中だと思いますが、待ちに待ったオリンピックが開催されることとなりましたし、本日から一部もう始まっております。オリンピックの開催についてもいろいろなご意見はありましたし、観客をどうするかというようなことでもさまざまなご意見があったと思いますが、大抵は無観客になったと思っております。ただ一部は、有観客ということで今日から宮城のほうでは有観客ということで実施されると思います。

私は、オリンピックの開催は賛成だが、すべて無観客が望ましいというふうに当初からずっと思っておりましたので、先般も、機会を見て隣県としては無観客が望ましいというふうには申しあげましたけれども、もう開催の運びとなったわけでありますので、しっかりと感染防止策、組織委員会のガイドラインというものもあるということでありますので、それをしっかりと徹底していただきたいと思っておりますし、また、観客の皆さんのほうもしっかりと感染防止策を守っていただきたいと思っております。そして、直行直帰というようなことをね、やはり心がけていただきたい。どうしても気分が高揚してね、途中でちょっと立ち寄りたくなったり、いろいろな行動に移りたくなったりもするかもしれませんが、やはりそういったことをしっかりと感染予防というようなことを考えて直行直帰でしっかりと守っていただきますよう、お願いをしたいと思います。

記者

NHKの岡野と申します。よろしく申し上げます。ちょっとワクチンの話に戻ってしまうのですが、65歳以上の方への接種状況、現時点で最新のものが分かればということと、政府が「希望する方には7月、今月末での終了を見込んでいる」ということで4月に菅総理大臣が発表されていたのですが、7月末に終わりそうなのか、もしくは終わらなければ何か理由があるのか、そのあたりをお伺いできますでしょうか。

知事

はい、そうですね。私が、昨日今日聞いたわけではないのですが、直近で聞いたものでありますと、今月末までに、65歳以上の方ですと、81.5%とかそういう数字だったかと思っております。それは、ワクチンを接種して、そして登録するまでのタイムラグ

というものもあるそうなので、実質的には、だから9割くらいになるだろうということを聞いておりますし、1割くらいの方は希望されない方もいるということを考えると、ほぼ完了ではないかということを担当からお聞きをしております。また、後ほど詳しくお聞きしてもらえればと思います。

記者

ということは、7月末の完了はちょっと難しいという感じなのですか。それともできそうなのですか。

知事

ええ、今の状況で言いますと、ほぼほぼ完了に持ち込めるのではないかというふうなことを聞いております。

記者

わかりました。あと、先週もお伺いしていたのですが、副知事の関係なのですから、その後、進展というか状況がもし変わっていれば教えていただけますでしょうか。

知事

状況というのはどういうことなのかちょっとわかりませんが、しばらくの間見守っていただければというふうに思います。

記者

じゃあ自民党側との意見交換もすでに始められているという状況なのですか。

知事

いえいえ、なかなかセンシティブなものでありますので、ちょっとしばらくの間見守っていただければというふうに思っております。

記者

わかりました、ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの高橋です。昨日、デルタ株の可能性のある変異株が確認されましたけれども、山形でも確認された、可能性というレベルではあるんですけども、受け止めにまずお聞かせください。

知事

人流というものがある限り、必ずいつかは本県内でも確認されるかなとは思っておりました。まだ可能性ではありますけれども、いよいよ本県内でも確認されたかという、まだされていませんけれども、そういう状況であります。やはり、なんとしても食い止めたいとは思っておりましたけれども、やはり首都圏のほうと往来があったというようなことも聞いておりますので、ついに来たかということでもあります。

しっかりと、それが拡大しないように改めて気を引き締めて、私たちも、そして本当に県民の皆さんみんなで感染予防対策を改めて徹底していく必要があると思っております。

記者

先ほどもオリンピックの話もあったと思いますけれども、海外の方も国内にかなり入ってきている。そして小中学校も明日から、夏休みに入っていくというところで、これからの期間の行動について、どのようなところに気をつけなければいけないか、どのようにお考えか教えてください。

知事

そうですね、暑さ対策というものも1つございますが、可能な限りマスク着用といった基本的な感染予防対策、そこは本当に大事なところであります。基本中の基本でありますので、本当に先ほど申し上げたその基本防止対策、基本的な感染予防対策を今一度ご自分も、そして周りの方も守っていただきますように、そこをぜひともお願いしたいと思っております。

記者

夏休みもあるということで、家族での旅行であったりとか、そういったものもどうしてもしたくなってしまう時期だと思うんですけれども、例えば県外への移動、また首都圏往来、こういったところでの考え方というのを改めて教えてください。

知事

はい。私は家族の旅行といったことまでは控えてくださいとは申し上げておりません。いつも一緒に過ごしている家族の方での、県内でのご旅行というようなことは、本当に大切な思い出にもなりますし、よろしいのではないかと考えております。

ただ、移動先での行動、きちんとエチケットというものを、守っていただきますように、宿泊施設などではしっかりとそういった感染予防対策も行っておりますので、あとは移動する方々、県民の皆さんが、エチケットというものを守っていただくことが大事だと思っています。感染防止対策をしながらぜひ楽しい思い出を作ったり、県内での小さな旅といえますか、そういった旅行も楽しんでいただければと思っております。

ただ、緊急事態宣言、まだそういった地域、重点措置の地域もございますので、そういったところとの往来は控えていただきたいと思っております。

記者

そうすると、そういった措置が取られていない県、例えば東北であれば隣県ですとか、そういったところというのは対策を取った上で移動というのはある程度はやっても、気をつけてやっても構わないという認識でよろしいでしょうか。

知事

そうですね、全国知事会としては県境を越える移動というのは、できれば不要不急の移動は控えていただくほうがよいということを申し上げていると思っておりますが、うちの県としても、やはりそこはそんなに奨励はしないけれども、不要不急は控えていただきたいと思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

読売新聞の吉田です。よろしく申し上げます。本日で衆議院議員の任期満了まで3カ月となりました。知事の衆議院選挙に対する態度、対応があればお聞かせください。

知事

そうですね、まだ正直、今オリンピックというのが始まるということでありまして、あと、デルタ株かもしれないというようなそういう状況にございまして、しっかり感染防止をまた行っていかなきゃいけないという思いがあります。また、県政課題というのもありますので、そこについてはなかなか詳しいことは申し上げられないですけれども、いろんなことがありますので、まだ数カ月先の衆議院選挙にまでは及んでいないところであります。ただ、私の今までの生き方というのがその恩返しということがありますので、そういったことを考えながらやっていきたいと思っております。

記者

実際、その解散というものが見えてきた段階で何かしら意思表示というか、そういったことはお示しされるというか、明らかになるというか、そういった感じで見たいければよろしいですか。

知事

具体的なことにつきましては、まだどうするかというようなことまでは、現時点では考えてはいないということでもあります。それは近づいてきたら考えるというふうになると思います。

記者

ありがとうございました。

記者

朝日新聞の鷺田と申します。大規模接種についてお尋ねします。この前、国が行った大規模接種の場合ですと予約番号というのが、架空でも登録できたなんていうことがありました。

それで今回、県として初めて64歳以下の、一般向けの方への接種を主体的に行うことになると思うんですけれども、その際も予約の際に接種券番号の入力が必要なんですということですが、そういった二重の登録だったり、あるいは架空の番号で登録できるようなシステムになっているのかどうか教えてください。

知事

そうですね、そういったことは避けてくださいというふうには申し上げておりますけれども、具体的にどのようなになっているかについては後ほど担当から聞いていただければと思います。二重を完全に防ぐとか、架空のを防ぐとか、そういうことができるのかどうか、ちょっとそこまでは私まだ聞いていないところです。

記者

例えばですが、山形市の場合ですと、予約途中キャンセル、要は予約していたものがキャンセルになってしまった場合に、余った分をその予約の空き待ちバンクというようなところに登録している方に優先的に接種していくというような体制を取っていますけれども、今回の大規模接種の場合にこの有限な資源であるワクチンを無駄にしないために、予約したものに対してもキャンセルが出てしまった場合に取りる対策というのがあれば教えてください。

知事

はい。そうですね、登録までするのかどうかわかりませんが、例えば、子どもたちとよく接する機会の多い教員、教育界でありますとか、そういったことを考えるというようなことはあるかと思っておりますけれども、本当に具体的なところでありますので、後ほどお聞きいただければと思います。